

## リレー・フォー・ライフに参加して

社会医療法人 耕和会 迫田病院 総師長 山添 みどり



『リレー・フォー・ライフジャパン 2018 宮崎』が9月8日・9日の2日間、子供の国のたいようの広場で開催されました。

がん(癌)サバイバー(がん患者、がん経験者)、ケアギバー(がん患者家族、遺族支援者)をたたえ、地域全体でがん制圧を目指すチャリティーイベントで、職員10名で初参加しました。

開催前日から実行委員、ボランティアの方々が会場設営・準備などされていたのですが、雨が降り、

悪天候の中での開催となり、1日目は夜20時には終了、2日目は朝から雷雨のため中止となり、初参加の私達は燃焼不足で終了となりました。

リレー・フォー・ライフのはじまりは、助け合おうという想いからだそうです。1985年、アメリカのシアトル郊外でアメリカ人外科医が患者救済と癌制圧・予防を訴えるために始まりました。『がん患者は24時間がんを闘っている』をメッセージに、トラックを24時間走り続け寄付を募りました。共に歩き語らうことで生きる勇気と希望を生み出すイベントは世界中で開催され、日本国内でも2006年9月に茨城県つくば市から第1歩踏み出し、2017年には全国49か所以上で開催され、年々開催地・参加者が増え続けているそうです。

今回、私たちは初参加でしたが、他の医療関係者やいろんな事業所の参加等、計48チームが集結し交流を深める事が出来ました。参加に先立って、オリジナルのフラッグ作成が急務で、開催日まで期間も少なく仕事の合間を見つけながら、また院内保育園の子供たちと先生方のご協力もいただいて、素敵なフラッグが無事完成しました。フラッグの中央の3文字(愛・希望・絆)は、当院で出逢った「がんサバイバー」、「ケアギバー」との思い出や顔など思い出しながら浮かんだ文字で、私たち参加者の想いです。

フラッグの言葉の意味は

- ・愛 : 大切な人への想い
- ・希望 : 元気になる、回復する等の願いを込めて
- ・絆 : 出逢った方々、愛する人、同じ病気を抱え頑張っている仲間同士心と心の絆を大切にしていきたい

11時からイベント開始。それぞれのチームが参加動機や意気込みの紹介から始まり、知らない参加者同士とハイタッチしながらウォークがスタートしました。昼間のステージでは、音楽やトーク、講話、フラダンス、がん患者・家族の経験談などたくさんの啓発イベントが企画されていました。トラックを歩きながら、途中足を止めては聞きいる場面も何度かありました。

経験談を聞く中で、日頃看護師という立場で、私自身の患者・ご家族への関わり方や向き合う姿勢はどうなのか?という事を振り返るきっかけにもなりました。又、数か月前にがんで母を亡くした私は、がん家族の立場で看護・介護の大変さやつらさなど共感する場面もありました。そして、少しずつでも前に向かって生きて行こうという気持ちにさせていただき、私自身が「がんサバイバー」や「ケアギバー」の方々から勇気と元気をいただいたことに感謝しています。

夕方には、ボランティアの方々がルミネリエ1つ1つをトラック周囲に並べながら点灯の準備をされていました。ルミネリエには、それぞれ亡き方への思いや、今現在がんを闘っている方々へのエールのメッセージなどが記載されていました。内容は、どれもとても心にしみるものでした。夜にはルミネリエに光が灯り暗闇の広場を照らし、暖かな光がメッセージと共に私たちを包み込み、ウォークしている私たちの足元を優しく照らしてくれているようでした。

今、「がん」という病は、2人に1人の人がかかる病気だと言われる時代になり、身近な病気になってきました。同じ病気を持った患者、家族同士の交流の場がある事は病気と立ち向かう方々に元気や勇気を与え支えることにつながります。

リレー・フォー・ライフの支援活動は、がんサイバー・ケアギバーにとって希望(HOPE)を与えてくれる存在である事が理解できました。今回、参加することで、みんなで支え合う事の大切さ、命の尊さを感じると共にがんの予防や健診を啓発していくことの必要性を強く感じるイベントだったと思います。

これからも、この活動が継続していくことを願っています。また、当院の患者・ご家族、職員にもこのような活動情報を伝えて行きながら、看護師として寄り添った看護が出来る様これからも精進していきたいと思っています。